

## 第3回大崎市総合計画審議会会議録

日 時 令和3年11月9日(火) 午前10時00分～午前12時00分  
場 所 大崎市役所東庁舎5階大会議室  
出席者 會田征子委員, 風見正三委員, 小玉順子委員, 佐々木裕子委員, 青沼陽一委員,  
阿部雅良委員, 佐々木浩治委員, 畑中理一郎委員, 星義一委員, 村田秀彦委員,  
千葉啓治委員, 佐藤仁委員, 柴原一雄委員, 佐藤政重委員, 石田政博委員,  
中鉢幸一委員  
欠席者 佐々木政直委員, 鎌田修二委員, 渡辺俊委員, 太田孝委員  
市出席者 伊藤市長, 高橋副市長, 尾松副市長, 赤間総務部長兼政策推進監,  
渋谷総務部理事(財政担当), 佐藤市民協働推進部長, 佐藤民生部長,  
茂和泉産業経済部長, 茂泉建設部長, 宮川教育部長, 尾形上下水道部長,  
中田経営管理部長  
事務局 大場市民協働推進部参事兼政策課長, 高橋課長補佐, 五十嵐主幹兼係長, 高橋主事  
傍聴者 1名

### 概要

#### 1 開会

#### 2 あいさつ

##### ○伊藤市長

- ・大変お忙しい中, 委員の皆様にご出席いただき感謝申し上げます。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染者ゼロが41日間続いている。確実に減少しており, 皆様のご協力に感謝申し上げます。
- ・政府は第6波に対する対応を打ち出しており, 本市としても10月15日に民間のPCR検査センターを開設し, 従前の病院, 宿泊療養施設の確保に加えて万全を期してまいりたいと思う。同時に, 疲弊した地域経済, 低米価等への支援策を含め, 1日も早く日常を取り戻してまいりたい。
- ・新規感染の減少, 行動規制の解除等に伴い, 人流が回復してきた。本市としても鳴子峡の紅葉が見頃を迎え, 多くの方にお越しいただいている。まだ宿泊に繋がらなかったり大型バスの団体客が戻っていないという部分はあるが, 人流が戻りつつあるということに期待を抱いているところである。
- ・これまで開催を見合わせていたイベントや会合等も少しずつ動き出してきた。11月3日には大崎市誕生15周年記念式典を開催し, 感染防止策を講じながら450人の方々にご参加いただいた。ご来賓, 一般募集枠の方々を含め, 多くの方々と15周年を喜び合うとともに, 次なるステージへ向けたスタートを切ったところである。
- ・合併後初の姉妹都市締結を, 富山県の黒部市と行った。これにより, 旧市町時代のものと合わせ, 国内外11の都市と姉妹都市, 友好都市等の関係となった。今後, 黒部市との交流も進んでいくこととなるので, 皆様方にも様々な形で交流にご参加いただければと思う。

- ・明後日には、審議会委員でもある古川農協の佐々木専務と一緒に、姉妹都市の台東区を訪問する。今年から台東区の給食に本市のお米を使っていたので、台東区の子どもたちに新米をお届けしながら、今後の交流活動の打ち合わせをしてみたいと思う。
- ・第2回審議会の後、住民説明懇談会、パブリックコメント、議会からのご意見等を積み重ね、最終案を取りまとめた。この間、建設的にご指導いただいたことに感謝申し上げるとともに、本日は最終案のご審議を賜りたいと思う。よろしく願います。

#### ○風見会長

- ・新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せ、人流が回復していることをお喜び申し上げます。大勢の方々に大崎市にお出でいただき、経済も上向いていけばと思う。
- ・先日、15周年の記念式典が挙行されたということで、お祝い申し上げます。大崎市の発展の度合いを確認できる大変良い式典だったと思う。
- ・衆議院選挙が行われ、岸田政権が承認される結果となったが、岸田政権は田園都市構想を大変重視しており、そういった意味では重点プロジェクトの中の「未来を担うひと・地域・田園都市創生プロジェクト」がさらに重要性を持つてくる。田園都市という言葉が国政の中心に置かれる時期が近いということを考えると、この自然豊かな大崎市にとっては大変大きな政策の節目にあると思う。
- ・21世紀の一番大きな課題は、地球環境に対応することである。10年先、100年先の大崎市民の方々が幸福に、豊かに暮らすためには、これまでの産業や生活の仕組みをもう一度顧み、新しいビジョンが必要である。そういった意味では、この総合計画は時代の変り目で重要な時期に見直しの機会があったと思うとともに、伊藤市長をはじめ、事務局の方々が非常に精力的に見直しに取り組んでくださり、大変迅速に新しい時代を取り入れた総合計画になっているのではないかと思う。
- ・計画期間が令和8年度までということで、その先には二酸化炭素排出量50%削減の目標年度である2030年、カーボンニュートラルの目標年度である2050年が目前に迫っている。自然環境を守り持続可能な産業をつくることによってカーボンニュートラルを達成する、この中心になるのは自然豊かな地方都市である。総合計画は、カーボンニュートラルだけではなく、産業、福祉、医療、観光等、様々な視点から見ていかなければならないが、ゆくゆくはこれが持続可能な豊かな大崎市の実現に向けての骨格の政策となる。そういった意味では、非常に前向きな計画案がまとまったのではないかと思う。
- ・総合計画後期基本計画をしっかりとまとめあげ、具体的な施策の実施に繋げていければと思うので、本日も活発なご議論をよろしく願います。

### 3 報告

#### (1) 審議会、住民説明懇談会、パブリックコメント等の実施状況について

- ・資料1に基づき事務局より説明を行った。

### 4 議事

#### (1) 第2次総合計画後期基本計画（最終案）について

- ・資料2に基づき事務局より説明を行った。

○風見会長：最終案ということで、これまでの皆様のご意見がしっかりと反映されているか、ま

た、全体の最終案をご覧いただいてのご意見をお一人ずつ頂戴したいと思う。

- 會田委員：私がこれまで意見を述べてきた「ひと」、「人材育成」について、重点プロジェクトの1つ目に掲げられており安心している。時代に合った、先取りした形で、ソフト面も充実しており、将来の子どもたちが夢を持てるような計画になっていると思う。

一点だけ気になったのが、1ページの下部の赤字部分について、中間案のときにはあった「安全、安心」という記載がなくなっていることである。「安全、安心」は全ての分野に繋がるものであり、一番重要なことであると思うので、6行目に「安全、安心な個性豊かな地域づくりを～」というような形で入れていただくようご検討をお願いしたい。

- 市民協働推進部参事：基本的な考え方としては、参考資料1に記載のある「持続可能な大崎市」と「市民との協働」、SDGsで言うと11「住み続けられるまちづくりを」と17「パートナーシップで目標を達成しよう」のふたつを今回のメインとして入れさせていただいているところである。「住み続けられるまち」の中に「安全、安心」は含まれるが、ワードとして入れることでよりはっきりするのではないかと思うので、事務局で整理させていただきたいと思う。

- 小玉委員：ページをめくるたびにSDGsのアイコンが目に入り、分かりやすく良いと思う。その中で、ジェンダーの視点をもっと多くのところに入っても良いのではないかと感じた。日本は女性の活躍がまだまだ進んでおらず、様々な分野で様々な問題が潜んでいると思うので、そういった視点でもう一度見直していただければと思う。

また、4ページの前文に、話し合う協働のまちづくりに関する文言を入れていただいた。コロナ禍でなかなか話し合うということができない中で、冒頭にこういった記載をしていただいたのは非常に良いと思う。また、主な取り組みに「大崎市流地域自治組織の支援」、「移住・定住の促進」、「地域おこし協力隊の活用」とあり、移住してきてくださる方を地域でも総ぐるみで受け入れていくという視点、これに重点で取り組んでいくということを分かりやすく提示していただいたなと思う。

- 市民協働推進部参事：SDGsのマークについては再整理が必要と考えている。ジェンダーの視点については、現時点では第1章第2節、第2章第8節、第3章第1、3、4節に掲載しているが、まだ全体的な整理ができていない。該当する部分にはこちらのマークをしっかりと掲載することで、我々もそういった視点を踏まえながら事務事業に取り組んでいく、市民の皆様もそういった視点を持ちながら取り組んでいただくということで整理をさせていただきたいと考えている。

- 佐々木（裕）委員：計画に関して申し上げることはないが、要望として一点申し上げる。他の市町の会議にも出席しているが、女性がこれほど少ない会議はなく、少なくとも三分の一は女性である。令和8年の審議会の時には、役所側も含めもっと女性を入れていただきたい。特に30代の子育てしている女性を入れていただき、女性の視点をもっと取り入れられるようにしていただきたいと思う。

- 青沼委員：全体の計画としては大変よくまとまっていると思う。そこで一つ提案だが、この計画案ができた段階で、各課、各係で計画全体を輪読してはどうか。職員も地域に戻れば住民のひとりであり、市の施策をしっかりと理解している人間が地域にいることは、地域づくりやコミュニティを進める上で非常に重要である。自分の課の部分だけではなく、計画全体を理解することで、職員は地域でも大きな力になり得ると思うので、そういった視点で進めていただければと思う。

また、5ページの主な取り組みに「担い手や青年就農者、多様な主体の確保」とあるが、「多様な主体の確保」という言葉の意味が分かりにくかったので教えていただきたい。

- 産業経済部長：農業分野に関しては、人材が不足しているというのが現状である。その中で、青年就農者の他にも、例えば土地利用型農業経営体等、様々な農業経営体を育成していくことを示すためにこういった表現になったということでご理解いただければと思う。
- 総務部長：職員がこの計画を全体としてどの程度理解しているのかということについては、把握はしていないのが現実である。初任者研修の際に総合計画の時間を設けているので、その段階で話はしているが、あとは自分が担当する部署の方針等を見て実施計画に結び付けているのが現状である。また、私も職員が地域に入っていくというのは大変重要な視点だと捉えている。市民協働を謳っている大崎市なので、地域の方々も職員を育てるといったような視点もあっても良いのではないかと考えており、そうやって一緒にまちづくり、地域づくりを進めていければと思っているところである。
- 阿部委員：この計画が絵に描いた餅にならないよう、共に話し合い、全ての人々、全ての組織が実践を通して結果を出していくために、確実に実行に繋げていただければと思う。
- 佐々木（浩）委員：私は農業分野の代表としてこの場に出席しているが、農業分野だけが振興し、成功していくということではなく、大崎市全体が繁栄していくということを考えると、今回示され最終案については、横の繋がりもしっかりと取れており、非常に良いものになっていると思う。
- 畑中委員：素晴らしい未来を彷彿とさせる計画になっていると思う。特に第5章第3節の福祉分野の施策においては、10年後の望ましい姿に記載のある「高齢者が自ら～」という部分が非常に重要になると思うので、できるだけ早くこの施策を進めるようお願いしたいと思う。
- 星委員：まちづくりは行政だけで取り組むものではなく、地域の方々も巻き込んで取り組むことが大切だと思う。最近では、企業の方々がボランティアでゴミ拾いや川の清掃をする等、地域の方々と一緒に協働で地域を良くしていこうという取り組みをよく目にする。これは本当に大切なことであり、こういったことが今回の計画の中にもしっかりと刷り込まれていると感じている。主役は市民であり、これから10年後の望ましい姿を目標に、市民、行政、企業が一体となって大崎市を作り上げていくということで、素晴らしい計画ができたと思う。  
一点意見としては、26ページの健康づくり、スポーツの分野に、パラスポーツの文言を入れてはどうか。体の不自由な方々も自由にスポーツを楽しむことができ、健康な方々と一緒にスポーツを楽しみながら様々な取り組みをしていくということが必要であると思う。
- 教育部長：パラスポーツについては、施策の背景の冒頭の『市民の「だれもが」～』という部分に、障がい者の方々も含まれると考えているが、表現については改めて検討させていただきたいと思う。また、大崎市としては、パラリンピックでも注目された「ボッチャ」を来年度から学校で取り入れ、今後市民の皆様にも普及していきたいと考えているところである。
- 千葉委員：素晴らしい計画であると思うが、この実務をどう結集していくのかということが悩ましいところである。地域活性化においては、子ども会を作れば親御さんたちも参加して話し合いの場が増え、女性の参画も進むのではないかと。教育現場においては、教員が不足しているのでOBをボランティアのような形で参加させるなど、何か大崎市からできることはないか。スポーツ関係では、以前から申し上げているように古川にはグラウンドがなく、体育館もひとつしかないという中で、人を集めて多くのスポーツや大会ができるのか。そういった実務のこ

とがどうしても頭をよぎってしまうので、計画と同時に実務の形まで早めに掘り下げていただきたい。そうでないと大崎市の活性化には繋がらないと思う。

- 佐藤（仁）委員：協働の視点がしっかりと位置付けられているので、今後はこの視点での評価を行うことが一番大切であり、5年後に行うだけではなく、時々の評価をする必要があると思う。また、第5章は「地域で支え合い～」、第3章は「地域の個性～」というタイトルとなっており、今後は地域において互いに支え合うことが大切になると思う。今後この指針に基づいて、ひとつひとつの具体的な実施項目がつけられていくと思うので、それに基づいて、地域と共に協働の視点で検討しながら、確実に進めていく必要があると感じた。

また、松山まちづくり協議会から要望書を提出させていただいた。今後、各地域からも要望等が上がってくると思うが、そういった市民の意見も取り入れながら進めていただきたいと思う。

- 柴原委員：計画そのものについては非常にしっかりできており、申し上げることはない。住民からのプッシュがあれば役所も動くと思うので、この計画を実効性のあるものにするためには、物分かりの良い住民ではなく、まちに対してどんどん意見を言う住民であることが必要だと思う。

また、世界農業遺産ブランド認証制度について、林業、木材は当てはまるのか伺いたい。カーボンニュートラルの話題も出ているが、現在、木造の超高層ビルも計画されており、再利用が可能で軽量、かつ耐久性も高くなっているということで、そういった意味でも木材は大変重要であると思う。私の希望としては、大崎市は森林も非常に豊かなので、国の施策になると思うが、カーボンニュートラルに貢献している市に対して交付税でポイントをあげるとような制度があると、やる気が出て非常に良いと思う。

- 産業経済部長：現在行っている産業振興計画の見直しにおいて、林業については重点を置いた改訂を行っている。2050年カーボンニュートラルの達成に貢献する上で森林は非常に重要であるので、その点についてはこれまでの大崎市の森林に対する考え方が少し遅れているのではないかと反省も踏まえた記載をしている。さらに、林業は労働力不足が著しい分野でもあるので、人材の確保も併せて行っていくということを記載している。

また、世界農業遺産の認証に関しては、お酒や食べ物が中心ではあるが、地場産品を製品として加工したものについても対象品目として随時追加しているので、林業分野でもその取り組みを進めていきたいと考えている。

- 佐藤（政）委員：4ページと6ページの重点的に取り組む施策の順番が入れ替わっているが、その意図を伺いたい。

また、住民説明懇談会について、私も田尻地域の懇談会に参加したが、次世代を担う若い方々の姿がなかった。今後、地域からの若者離れが危惧される中で、若い方々の声を伺い、ニーズを取り入れながら、若者世代が住みたくなるような、魅力溢れるまちづくりが確実に推進されることを願うところである。そこで、他の地域での住民説明懇談会やパブリックコメントで、若い方々からどのような意見や提言があったのか伺いたい。

また、後期計画策定の中で、立場の異なる多くの市民の皆様からご意見やご提案が寄せられ、その中には、10年、20年先を見据えた意見等もあり、今回の計画に反映できなかったものもあるかと思う。これらの意見等について、今後計画を推進する段階の中でご協議を賜り、可能なものについては適宜反映に努めていただくようよろしくお願いする。

○市民協働推進部参事：重点的に取り組む施策については、施策の優劣は付けておらず、全て並列という考え方である。記載の順番に関しては、議会からもご意見をいただいております、こちらについては基本計画の章・節の順番に並び替えをすることで整理させていただいたので、ご理解いただければと思う。

住民説明懇談会については、ご指摘のとおり若い方々にご出席いただけなかったというのが現実である。市としては、懇談会を土日に開催したり、パブリックコメントを実施するなどして、出来る限り若い方々にもご参加いただけるような環境の設定には努めさせていただいたところである。今後も引き続き、少しでも若い方々のご意見が拾い上げられるような方策を検討していきたいと考えている。

○石田委員：まちづくり協議会は拠点のない団体であり、会議をするときだけ役場の会議室を借りている。お茶飲みついでに意見交換ができるような場が欲しいので、役場の中にまちづくり協議会用のお部屋をひとつお借りすることはできないか。

また、會田委員からご意見のあった「安全、安心」について、中間案と同様に、デジタル・トランスフォーメーションの後に記載すれば良いのではないか。

また、青沼委員からご質問のあった「多様な主体の確保」について、就農のことであれば「就農母体」と具体的に記載した方が良いのではないか。

○中鉢委員：現在、COP26等で地球温暖化対策、カーボンニュートラルが取り上げられ、脱炭素が謳われており、中国でも習近平国家主席が脱炭素を唱え、電力事情がひっ迫している。そういったことを考えると、15ページの実現に向けての主な取り組みに「8 市民の放射能に対する不安の解消に向けた事業の実施」とあるが、脱炭素に向け原子力発電を電力源として考えているのではないかという印象を受けた。

また、45ページの施策の背景に「近年増加している空き地や空き家については、所有者による適正管理や、本市への移住、定住などの利活用により、清潔で快適な生活環境を保全し～」とあるが、大崎市の人口が5年後に減るという推計が出ており、今後は空き家がさらに増加していくと想定される中で、移住施策だけで空き家問題を解消するのは無理があると思う。ひとつ例を挙げると、風水害でトタンが飛ぶような建物があり、相続人であるご子息が東京や仙台にいて大崎市にいなかったとする。その建物を保存ではなく撤去してもらったとすると、撤去後は税の軽減措置が受けられなくなる。そういった場合に、市で認めた建物については、建物を取り壊して更地になっても軽減措置を受けられるようにしてはどうか。実施計画で盛り込んでいただくよう、ぜひご検討いただきたい。

○市民協働推進部長：空き家対策については、現在各種施策を実施しているものの、空き家が増加している中で、対策が追いついていない部分もあるというのが現状である。今後は引き続き施策を展開していくとともに、これまでは様々な施策があってもそのPRが不足していたので、そこに力を入れていきたいということで進めている。

税の問題については、本来は壊す、壊さないに関わらず、居住の用に供されていないと適用されないものである。そういった扱いの問題もあるので、どのような運用ができるのか研究していきたいと思う。

○市民協働推進部参事：15ページの「8 市民の放射能～」については、東日本大震災の時の放射能関係の記載で、モニタリング等をしながら不安解消に努めるという内容なので、ご理解いただければと思う。

○村田副会長：知事選の際に村井知事が、少子化で就労人口が減っていくことは大問題であるというお話をされていた。明るい希望の持てる計画であることは非常に良いと思うが、5年後、10年後を見据えた計画であるという視点が必要であると感じた。中鉢委員から空き家対策の話も出たが、これからそういった問題が出てくるということを見つめ直さなければならないと思う。

また、この2年は新型コロナウイルス感染症に振り回され、苦しめられてきた。我々経済人は効率性を高めていく **JUST IN TIME** の方式を取ってきたが、コロナ禍では、状況に応じて対応していく、あるいは事前にあらゆる準備をしていく **JUST IN CASE** の方式を取ることが必要ではないかと考えさせられている。これは感染症だけではなく、自然災害も同じだと思うが、今後コロナ以外の感染症の流行も考えられるので、そういった部分への対応については、もう少しボリュームを厚くしても良いのではないかと感じた。

○風見会長：一巡したが、他にご意見等がある方はいらっしゃるか。

○青沼委員：話し合う協働のまちづくりを進める上で、共助の考え方が大変重要であると思う。市民と行政が話し合う際に、自分たちでできることは何なのか、行政に頼むべきことは何なのかということを常にお互い考え、その視点を持って話し合いを進めていただければと思う。

○風見会長：他にご意見がなければ審議はこの程度にとどめたいと思う。皆様からのご意見を簡単にまとめさせていただくと、計画としては時流に乗った大変素晴らしいものになっているが、棚に上げることはないよう、実効性を高めること、政策の評価をしっかりと行うこと、実現の担い手となる市民と協働を進めることを心掛け、確実に実現に繋げていただきたいと思う。実効性を高めるべく、施策の評価をしっかりと行い、実現の担い手となる市民と協働で、確実に実現に繋げていただきたいと思う。それでは、後期基本計画案について、今回の意見に基づき取りまとめとさせていただき、修正が必要な場合は会長に一任とさせていただきたいと思うがよろしいか。

○審議会委員：了。

## (2) 答申書(案)について

・資料3に基づき事務局より説明を行った。

○風見会長：答申書案について、この内容で取りまとめとさせていただいてよろしいか。

○審議会委員：了。

○風見会長：もし何かお気付きの点があれば、事務局にご一報いただき、修正が必要な場合は会長に一任とさせていただきたいと思う。皆様の活発なご議論の下に、本日の議事を無事終了することができた。心より感謝申し上げます。最後に、これまでの議論を踏まえ、伊藤市長より一言いただきたいと思う。

○伊藤市長：委員の皆様方から最終案に対するご評価、激励、また、新たな視点でのご指摘も頂戴した。また、答申書案も無事取りまとめることができた。皆様方のご努力への感謝を形に表すとすれば、市内一体となって、この計画に基づき、それぞれの実効性を高め成果を上げることである。市民の皆様にご満足いただけるような市政を進めてまいりたいと思うので、ここまですり取りまとめいただいたことに厚く御礼申し上げたい。今後ともご指導、ご支援をお願い申し上げます。御礼の挨拶とさせていただきます。

○風見会長：総合計画は市の最上位計画であり、地域と共に、オールおおさきで実現するものな

ので、この一言一言が皆様の目標であると受け止めていただければと思う。私からのお願いとしては、地域の人々がどう参画するかが政策の一番の基本であるので、議論の場をしっかりとつくっていただきたいということである。これから多様な参画を広めていくために、古代ギリシャではアゴラと呼ばれたが、議論の場をフラットにつくるというのが非常に重要である。これから新庁舎も建設されるので、様々な市民が様々な場所で議論ができるよう、行政としてもしっかりと場づくりをしていただきたいと思う。引き続き伊藤市長に陣頭指揮を執っていただき、全庁、全市、全市民で、この総合計画を推進、実現できるよう、引き続きよろしくお願ひしたいと思う。

## 5 その他

- ・なし

## 5 閉会

### ○村田副会長

- ・本日は大変お忙しい中、委員の皆様には審議会にご出席いただき、様々なご意見を賜ったことに感謝申し上げます。また、関係部署の皆様、事務局の皆様には大変素晴らしい計画案を取りまとめいただいたことに感謝申し上げます。
- ・大崎市で生まれた子どもたちが、いよいよ社会に出て活躍する時期になってきた。そういった意味で、この総合計画を基に一体感を醸成できればと思うところである。
- ・上位計画である総合計画が、他の様々な計画に展開されていくことを期待し、委員の皆様には引き続き、この計画の実施、実行にご協力を賜ることをお願ひ申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。

以 上